

奄美大島におけるミカンコミバエ種群の誘殺状況と「ミカンコミバエ種群の防除対策検討会議」の開催について

ミカンコミバエ種群は、例年、強風により我が国の南西諸島に飛来するため、トラップを設置し誘殺することで、早期に発見し、速やかに防除を実施することとしています。本年度は、継続的にトラップに誘殺される状況にあり、対策の一層の強化が必要となっていることから、農林水産省は、平成 27 年 11 月 4 日（水曜日）に、中央合同庁舎 4 号館共用会議室において「ミカンコミバエ種群の防除対策検討会議」を開催します。

会議は、非公開です。ただし、カメラ撮影は冒頭のみ可能です。

1. ミカンコミバエ種群とは

ミカンコミバエ種群は、果実や果菜類に甚大な被害を与える重要病害虫であり、中国、台湾、東南アジア等に生息しています。我が国では南西諸島及び小笠原諸島に分布していましたが、関係機関が連携し、18 年の歳月と約 50 億円の防除費用をかけ、昭和 61 年に根絶を達成しました。

一方、毎年、台風等の強風に乗って、台湾、東南アジア等から数匹から数十匹程度が我が国へ侵入してくることが確認されているため、平時より、植物防疫所及び都道府県が連携し、本虫の誘引物質及び殺虫剤を塗布したトラップを設置して、侵入を警戒しており、万が一、侵入が確認された場合は、直ちに、防除対策を実施しています。

2. 奄美大島におけるミカンコミバエ種群の誘殺状況及び防除対策

奄美大島では、本年 9 月以降、南部を中心に、数匹から数十匹規模のミカンコミバエ種群の誘殺が確認されたことから、農林水産省は、鹿児島県と連携の下、

- (1) トラップの増設による発生状況の的確な把握
- (2) ミカンコミバエ種群の誘殺を目的としたテックス板の散布
- (3) ミカンコミバエ種群の寄生植物が確認された調査地点及びその周辺における殺虫剤の散布及び本虫の寄主植物の除去

等の防除対策を強化しながら、本虫の定着防止を図ってきたところです。

3. 対策検討会議の開催

このような状況において鹿児島県から、10月においても、ミカンコミバエ種群の誘殺が多数確認されている旨の報告があったことから、今後、同島の特産物であるポンカン、タンカン等の収穫・出荷時期を迎えることを踏まえ、ミカンコミバエ種群のまん延防止及び根絶に万全を期すため、

- (1) 有人ヘリを利用したテックス板の散布など、テックス板の散布範囲拡大や散布密度の増加等による防除対策の一層の強化
- (2) 植物防疫法に基づく移動規制の実施

など今後の防除対策について、専門家の参加を得て、検討することとしました。

なお、検討会議事概要については、検討会終了後、以下のURLで公開いたします。

URL:http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/mibae/mikan.html

4. 開催日及び場所

日時：平成27年11月4日（水曜日）14時00分～16時30分

会場：中央合同庁舎4号館 12階 共用会議室 1219～1221号室

所在地：東京都千代田区霞が関 3-1-1

5. 議題

(1) 報告事項

- ・平成27年度奄美大島におけるミカンコミバエ種群の誘殺状況及び防除対策の実施状況

(2) 協議事項

- ・今後のミカンコミバエ種群の対策強化について
- ・植物防疫法に基づく移動規制の必要性について

6. 報道関係者の皆様へ

検討会の議事には、調査対象である生産園地等と直接関連する個人情報が含まれ、当該個人の利益を害するおそれがあるため非公開としますが、冒頭のカメラ撮影は可能です。

7. その他

ミカンコミバエは、農作物に被害を及ぼす植物検疫上の害虫であり、人畜に毒性・寄生性はありません。

<添付資料>

- ・ 対策検討会議構成員名簿
- ・ ミカンコミバエ種群とは
- ・ 奄美大島におけるミカンコミバエ種群の誘殺状況（9月以降）
- ・ 奄美大島におけるミカンコミバエ種群の誘殺地点（9月以降）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：国内検疫班 小宮、中園

代表：03-3502-8111（内線 4564）

ダイヤルイン：03-6744-9644

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>

対策検討会議構成員名簿

【有識者】

杉本 毅 近畿大学
名誉教授

藤崎 憲治 京都大学
名誉教授

宮竹 貴久 岡山大学大学院 環境生命科学研究科
教授

守屋 成一 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
中央農業総合研究センター 病害虫研究領域
専門員

(五十音順・敬称略)

【関係機関】

鹿児島県農政部

(敬称略)

ミカンコミバエ種群とは

ミカンコミバエ種群は、ミカンコミバエ等の形態的に酷似した種の総称であり、体長7mm位の小型のハエの一種で、カンキツ類等の生果実の大害虫として知られている。

【世界における発生地域】

中国、東南アジア、ハワイ等

【主な寄主植物】

カンキツ類、モモ、ビワ、トマト、マンゴウ等の生果実

【被害状況】

幼虫が果実に寄生すると腐敗・落下し、ひどい場合には収穫皆無となる。

【我が国の状況】

- 1 大正8年に沖縄本島で最初に発見。
- 2 南西諸島及び小笠原諸島にのみ発生していたことから、本土への侵入・まん延を防止するため、植物防疫法に基づき寄主植物の国内移動を規制する一方、昭和43年から根絶事業を開始し、昭和61年に根絶を達成。現在は発生が無い。
- 3 植物防疫法により、既発生地域からの寄主植物の輸入を禁止。

【防除方法】

雄除去法（誘引剤及び殺虫剤を染み込ませたテックス板を散布することによる防除方法）



成虫



幼虫



テックス板※

※ 沖縄県病害虫防除技術センターHPより引用

奄美大島におけるミカンコミバエ種群の誘殺状況(9月以降)

(単位:匹)

		9/1~9/7	9/8~9/14	9/15~9/21	9/22~9/28	9/29~10/5	10/6~10/12	10/13~10/19	10/20~10/26	10/27~10/30	合計
鹿児島県	瀬戸内町	16	7	11	27	47	43	120	134	66	471
	宇検村	0	0	0	0	12	3	1	3	1	20
	大和村	0	0	0	0	0	1	1	4	9	15
	奄美市	0	0	0	0	6	1	1	0	17	25
	龍郷町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	16	7	11	27	65	48	123	141	93	531

※トラップ設置地点は逐次増加。現在のトラップ設置地点数は291か所。

奄美大島におけるミカンコミバエ種群の誘殺地点(9月以降)

